

# 未来館 ニュース

vol. 50

CONTENTS

- 事業レポートI~III
- 図書室よりおすすめの本
- 活動団体紹介  
「YWCA活動スペースカーロふくしま」

平成25年度未来塾

## 女子“防災”力UPセミナー開催報告

平成25年8月から10月の5日間、災害時の被災者支援や復興、防災・減災などのさまざまな分野で、男女共同参画やジェンダーの視点に立ち、積極的に活動できる女性を育成・支援するためのセミナーを行いました。詳しくは、ホームページをご覧ください。



(シミュレーション「未来館が避難所になったら？」の様子)



## 平成25年度 未来館フォーラム

「大学・短大等学生のための  
ライフキャリアセミナー」

■日時：平成25年12月14日(土)13:00~16:30

■会場：福島大学

■基調講演：

## 「男女共同参画とキャリア形成」

■講師：

独立行政法人 国立女性教育会館

理事長 内海 房子さん

【講師プロフィール・うちうみ ふさこ】

◎1971年津田塾大学数学科卒業後、NEC入社。基本ソフトウェア開発に従事し、1987年技術課長。1989年に人事部に転じ、全社の女性活用を手がける。◎以後、人事・勤労・人材育成の仕事に従事。研究開発事務本部勤務部長、事務本部長などを経て、2001年にはNECソフト株式会社執行役員、2005年にNECラーニング株式会社社長に就任。2011年7月から現職。◎著書に「私は、人事課長一年生」(日経連広報部1990年)「もっと素敵にワーキングライフ」(大和出版1993年)がある。

「キャリア」とは、仕事だけではなく、地域活動なども含む多様な考えです。「自分らしい」キャリアとは何かを考える上で、男女共同参画の視点は重要です。

そこで、大学・短大・専門学校生などを対象としたセミナーを開催し、独立行政法人国立女性教育会館理事長の内海房子さんをお招きし、ご講演(60分)いただきました。

「女性」も当然働くと思っていた  
学生時代のコンピュータとの出会い

私は、前身が高等女学校だった高校に通いました。女子生徒は240人、男子は80人と、女子高のような雰囲気、男性にも負けない、それこそ新島八重のような頼もしい優秀な女性たちが多かったのですが、残念ながらその頃は、女性が社会に出て働き続けることが一般的ではありませんでした。

それから、女子大の津田塾大学数学科に進学、とても素敵な女性の先生が多く、当時は数少ない働く女性のロールモデルでした。教師以外の職業では女性はほとんどいませんでしたが、私はとにかく職業を持って、先生たちのように自立して生きたいと思いました。

この頃、大学でコンピュータとの出会いがあり、私の人生を大きく

変えました。いまコンピュータは当たり前で普及していますが、当時の私は、こんな面白いものが世の中にあるのかと大きな衝撃を受け、大変のめり込みました。コンピュータが発明されたのが1945年あたりで、まだ20年ぐらいいろ経っていない頃のことです。

## 女性が働きつづけること、昇進することの困難

就職を考える頃になると私は困りました。まわりに、会社で長く働き続ける女性が全くないのです。女性が企業で働き続けるにはどうするか、あえて挑戦する気持ちもあり、自分でいろいろと考えた結果、子どもができた時でも親に預けられるように、実家の近所の会社に就職したらどうかと考えたのです。

その頃私は、東京西部の府中市に住んでいて、ここには東芝やサントリーなどの大きな工場があり、NECも家から歩いて10分程度のところにあったのです。近所にコンピュータ関連企業のNECがあることに少し運命的なものを感じました。

そして1971年、NECに入社しました。新入社員だった初めの5、6年は、コンピュータソフトの開発が面白く、夢中で仕事をしました。その後、同期の男性が、やりがいのある、難しい仕事やリーダーを任せられるようになり、私もやってみたくて思いましたが、私にはそのような仕事は回らず、一時は転職も考えるほど悩みながら、10年が過ぎました。

私の入社した1971年、大卒の女性は30名採用されましたが、10年後には3人になっていました。女性を採用しても残らないとの理由から、1973年ごろから大卒女子を全く採用しなくなりました。1980年代になると、社会の変化に合わせて、NECは女性技術者の採用を強化し、1981年に50名、翌82年には100名と毎年50名ずつ増やし、ついに年間採用者数が200人まで増えました。職場に女性が多くなり、男女と一緒に働く職場になると雰囲気が変わりました。女性が増えたら私の立場も変わり、入社12年目にして、私もようやく主任に昇進しました。会社は私の存在を忘れていたと思っていたので、この時ほど嬉しかったことはありません。

## 経験のない人事の仕事への挑戦

1987年に技術課長になりました。わずか4年半で課長になれたのは、1986年に施行された「男女雇用機会均等法」の影響もあったと思います。さらに2年後、全く畑違いの人事部に異動し、全社の女性社員の活性化を手掛けました。これまで、家の近くの会社を選び、結婚・出産後も仕事を続けられるよう用意周到に進めてきましたが、人事部は東京の中心部の港区にあり、勤務先が遠くなりました。40歳になって初めて通勤ラッシュを経験することにもなり、大変な思いをしましたが、会社が女性をクローズアップし、活躍に期待していることがとても嬉しく、その仕事を私に任せてくれたのもとてもありがたかったです。頑張りとう一生懸命に取り組みました。

NECの幹部会は事業部長以上と関係会社の社長で構成されていて、当時のNECは社員が約4万人の企業で、幹部は約300人でし



たが、女性は2人だけでした。

私は4年間、人事部で女性活躍促進の仕事をして、いまは課長職の女性は約300人、部長職の女性は約80人です。社員数が多いので管理職全体の約4%ですが、全国の企業の中でも女性部長数はトップクラスだと思います。課題は、課長、部長クラスの女性は増えてきたと思いますが、幹部である事業部長や執行役員に女性が少ないことです。

それで、当時のNECの社長は、せめてグループ会社に女性役員を作ろうと、私が2001年に約5,000人の中堅企業である「NECソフト」の取締役に就任しました。その後、NECグループの社員教育・育成を担う「NECラーニング」の社長に就任しました。

## 日本の男女共同参画はどのくらい進んでいるか

男女格差を測る「ジェンダーギャップ指数」によれば、経済、教育、保健及び政治の分野の各種データから算出していますが、日本の順位は年々下がっています。2012年度は、日本は135カ国中101位でした。経済と政治の分野はとりわけ低い順位です。(2013年度は105位)

研究者に占める女性割合の国際比較でも日本は低く約14%です。韓国は約15%で、諸外国との差が広がっています。大学進学率も数年前から女子が男子を追い抜いたとの報道がありましたが、これは短大を含めてのことで、4年制大学では女子はまだ少ないです。世界の主要大学の学生数の男女比率では、ハーバード、スタンフォード、ケンブリッジ、オックスフォードはほぼ同数で、工学系のマサチューセッツ工科大でも約45%は女性です。日本の大学の女性割合は、東京大19%、京都大24%、東京工業大11.4%、早稲田大と慶応大はそれぞれ35.1%と32.6%ですが、他国との違いは何でしょう。理数分野における子どもの学力のデータでは、男子と女子に有意差はないのですから、日本の女子学生が理数系にあまり進まないのは、何か問題があるのではと思います。

また、日本では、男性と女性の家事時間に大きな差があります。夫婦共働きで子どもが0歳児の場合、女性の就業労働時間は大きく減り、家事労働時間は大きく増えます。男性は、就業労働時間は多く、家事労働時間は少ないです。また、男性は子どもの年齢に関わらず家事時間はほとんど変わりません。

次に、6歳未満の子どもがいる夫の家事・育児等の時間を他国と比較すると、日本では、家事が約1時間、そのうち育児は約30分、アメリカ、イギリス、ドイツでは家事が約3時間で、そのうち育児は約1時間とその差は大きいです。日本の場合は、共働き・片働きの夫の家事時間はそんなに変わらず、共働きの妻がほとんどの家事育児の負担をしています。女性が会社の役員になれる社会であるとは言い難いのです。

## 男女共同参画の視点でキャリア形成

政策決定の場に女性がいないと社会が変わらないので、女性ももっと政策決定の場へ、男性は家庭生活や地域活動に参画し、相互乗り入れが必要だろうと思います。

自分の人生を豊かにしようと思ったらワーク・ライフ・バランスの考えは重要です。ワーク・ライフ・バランスは女性のためだけのものではなく、むしろ、男性が考えた方がよい問題です。男性の、仕事以外の育児や地域活動などの経験が、仕事により影響を与えたいと思います。

私は、企業の中管理職が女性活用のカギを握っていると思っています。中間管理職である男性上司の方には、昇進を戸惑う女性に、どうして管理職になりたくないかを聞いたり、迷っている女性社員たちの背中を押したりしてほしいです。例えば、周りの管理職の人のように長時間労働はできないからとあきらめてしまう女性がいたら、働き方を見直せばいいと、アドバイスしていただければと思います。女性の皆さんには、不安な気持ちもあると思うのですが、自分の力に自信を持って、未知の世界に挑戦してほしいです。

## 3つの「き」と「C」

人材育成に必要な3つのキーワードがあります。「きめつけない」、「期待して」、「鍛える」です。昭和女子大学学長の坂東眞理子さんは、「きめつけない」の代わりに「機会を与える」を重要なキーワードに挙げていらっしゃいました。これも大事なことですが、私は特に女性の限界を決めないでほしいと思い、「きめつけない」をキーワードにしました。

もう一つ、リーダーに必要な3つの「C」をご紹介します。 「運命の出会いを活かし(chance)」、「変化を恐れず(change)」、「果敢に挑戦(challenge)」です。特にchangeは大事です。

私は、技術系の仕事しかしていないのに、事務系の人事に異動しました。何をすればよいかも分からず、誰も指導してくれず、しかも課長として赴任したので誰にも聞けません。新しくできた分野の仕事だったので、自分が作っていかう、変えていかうと思ってやったことがかえってよかったのだと思っています。自分が変わったことで対応できたのだと思うのです。

これから皆さんの人生にはいろいろなことがあると思いますが、岐路に立った時、どう考え、どう判断するかを男女共同参画の視点で考えていただければ大変ありがたいと思います。

皆さん、本日はどうもありがとうございました。

男女共同参画基礎講座

「定年後を輝いて生きる  
～これからは自分の人生～」

■日 時：平成25年12月21日(土)  
13:30～15:10

■講 師：NPO法人「シニア大衆(だいがく)」副理事長  
シニアライフアドバイザー

藤井 敬三さん



【講師プロフィール・ふじい けいぞう】  
◎昭和15年兵庫県生まれ ◎NPO法人「シニア大衆(だいがく)」副理事長/シニアライフアドバイザー  
◎「ユーモアスピーチの会」主宰 など。

定年退職間近の男性を対象に  
地域活動への参加や家庭生活の充実、  
生きがいづくりなど、  
定年後を豊かに生きるヒントを  
ユーモアたっぷりにお話し  
いただきました。



皆さん、割れんばかりの拍手をありがとうございます。藤井敬三でございます。73歳になります。先日久しぶりに、私と同期に入社した大親友に出会いましたら、なんか人間が変わっているんです。彼は仕事が好きで仕方なくてニコニコ働いていた男なんですが、ムスツとして昔の笑顔がない。「どうしたんだい」って聞いたら「毎日つまないよ」って嘆いていました。朝起きて、30分か40分かけて新聞を読むんですって。一通り読んで何もすることがないからゴロゴロしてたら奥さんに追い出されちゃう。「あんた今日良いお天気だから散歩に行つてらっしゃいよ」と言われた。犬を連れて家の周りを1時間ぐらい散歩して帰ってきたら「あら、お父さん、もう帰ってきたんですか」って。それでまた何もすることがないから、テレビのスイッチを入れると、どこのテレビ局もだいたい同じニュースをやっています。だから仕方なくてまた犬を連れて散歩する。もう散歩ばっかりしてると言っていました。こんな川柳がありました。『定年後 ポチも嫌がる 五度目の散歩』なんてね。

人生80年～90年時代

人生80年～90年時代、ありあまる時間をどう使うか。だいたい20歳から社会に入っていく。今は定年が60歳です。実際は64,5歳まで働いていらっしゃる方が多いのですが、一応60歳とします。20歳から60歳の間、40年間、この働いた時間数を計算した人がいるんです。通勤だと残業だと働くための準備をする時間も含めて1日12時間として、それを週休2日制で週5日間、1年で50週働いたとします。それで38年間勤め上げますと、11万時間働いています。その後、60歳から先の自由時間はどのぐらいあるだろうか。睡眠時間、家事をする時間、顔を洗ったりする時間だと全部省いて自由になる

時間を1日14時間として、それが毎日、365日これを22年間続けますと、なんと11万時間。労働時間と、定年後待っている自由時間が同じなんです。私ビックリしましたね。こりゃ大変だと。60歳過ぎたら後は適当に遊んでりゃいいやと思っていたら、この数字を見てしまったんです。それから私は忙しくなりました。

二つの人生

第1の人生はどんな人生だったかと言いますと、私は特に広告が好きだったので、広告代理店という好きな産業を選んだのですが、実際に仕事になると、上手くいかなかったことがいっぱいある。途中で何度辞めようと思ったことがあったかわからない。でも、ローンも残っているし、家族を養わなきゃいけない。だから、辞められなかった。歯を食いしばってとにかく60歳までいようと生きてきた。この第1の人生はどちらかというと奉仕の人生だった。自分だけの好き勝手なことができなかった。組織のため、家族のために働かなきゃいけない。

ようやく60歳を過ぎると、第2の人生が待っていた。学校を卒業した時は、社会の知識もなかった。経験もなかった。人脈もなかった。お金もなかった。あったのは夢だけだ。60歳の時点で私の話でいいますと、ローンも大体払い切った。子ども達も成人して独立した。妻と私しか残っていなかった。そしてこの40年間で培った人生経験。これがすごい財産なんです。それから人脈もある程度ある。ですから、第1の人生のスタート点と第2の人生のスタート点、まったくハンディが違うんです。第2の人生の方が遙かに高い位置からスタートできるんですね。就職する時皆さん真剣に考えたでしょう。色々な会社を訪問して、職業を選ぶにしても一生懸命考えた。第2の人生の時、果たして真剣に考えるか。やっぱり考えるべきだと思うんです。これから同じ時間が待っていますから。

第2の人生のスタートを切るにあたって、どういう人生を作り出すのか、設計するのか、これがポイントです。ウォーミングアップをして第2の人生に突入したと同時にスタートをさせる。助走時間が長ければ長いほどスタートが上手くいきますからね。この時に目標を持っているか持っていないかで大違い。だから今日からもう一度、これから先の自分の人生のドラマを描いてみる。頭の中で考えていることを真っ白な紙の上に自由に書いてください。書き出すと客観的になるんです。そうすると、やっぱり自分は本心ではこういう方向のことがやりたいなというのが見えてくる。例えば、私の友達で演劇をやっていた男が、役者になりたいと思っていたけど親の反対でならなかった。今何をやっているかという、役者をやっているんですよ。劇場の俳優学校に入って、今、明治座の舞台上に立っているんです。切られ役だけだけど楽しいって言うんですよ。若いときにやれなかったことが今やれる。そういうのを紙に書き出してみると、これがやりたかったというのが実現する時間が十分にあるんですね。

もう一つは、もう一度勉強してみる。家庭の事情で進学できなかった方は大学に行ってみるとか、更に自分の学んだ専門以外のところに入り直してみるとか、勉強し直してみるというチャンスがあります。

特にオススメするのが、新しい資格を取る。私は、シニアライフアドバイザーという第2の人生についてのアドバイスをする資格を取ったんです。それと同時に、健康についてもうちよつと勉強したいと、通信講座で健康管理士という資格も取りました。資格を取るには、かなり専門的なところまで勉強させられるんです。その後には必ず試験があるんですね。ですから勉強しないと合格しない。6ヶ月とか1年かけて資格の勉強をすることが一つの知識になる。資格を取って試験を受けて、あるいは研修を受けたりしているうちに、同じ目的に向かって進んでいる人達と知り合えます。

私の場合、シニアライフアドバイザーの資格を勉強中に、これからシニアのために貢献したいという仲間がいっぱい知り合ったんです。私の会社時代、現役時代にはまったく知り合うことがなかった人間です。ここで知り合った人がセミナーを受けたりしているうちに仲間になった。そこで私はシニア大衆というNPOを立ち上げたんですね。資格を取ることの一つの大きなきっかけになります。自由時間がいっぱいあるから何でもできるんです。自分の心が喜ぶこと、ここがポイントです。自分の心が喜ぶことをスタートさせてください。趣味だけじゃないんです。地域活動、ボランティア。これも一つのやりがいのある事業ですよ。それも単なる義理じゃなくて、自分の心が喜ぶようなボランティア。地域活動も一生懸命にやると楽しい。自分の心が喜ぶものじゃないと駄目ですよ。友達に誘われたからって、地域活動を始めて嫌々ながらやっている、これは不幸な人生。みなさんの周辺に色々なボランティアがあるでしょう。地域活動も色々なことがある。その中で自分の肌に合うものを見つけること。それが見つかったら生きがいになります。ですから、自分の心が喜ぶことを早く見つけてください。

笑顔と笑い

第2の人生で、みなさんがボランティアとか地域活動をやる時に、笑顔が大切です。ボランティアなんか嫌々ながらついていって、「あ〜ついてくるんじゃないかな」って嫌々ながらやらないでくださいよ。たとえ辛くても作り笑い。作り笑いをすると相手にうつって、周りが明るくなってそれをまたもらう。嫌な顔だと嫌な顔は周りにうつりますよ。私は今73歳。とても日本経済のために尽くせない。せめて笑顔ぐらいは社会のために広げることができるだろうと、こんなお話をさせていただいているんです。皆さん、笑顔が最高のボランティアです。お友達づくりをやるにしても、新しい事業をやるにしても、定年後もう一度仕事をするにしても、笑顔ですよ。やっぱり年の功は笑顔。

第1の人生の時は必死で働いた。第2の人生は余裕を持って、自分の心が喜ぶ仕事を選んでください。まだ家計を支えなきゃいけない方もいらっしゃる。あるいは家族を介護する方。介護する方も嫌な顔したら駄目ですよ。ニコニコやると楽しくなる。ボランティアをサイドビジネスだと思わないでください。これから第2の人生の真ん中に位置付ける。片手間にやっていたら駄目です。第1の人生の時、仕事を片手間にやりましたか？仕事を人生のど真ん中に持ってきたでしょう？第2の人生もボランティアとか地域活動、自分の心が喜ぶものを人生の真ん中に持ってきてください。そしたらやりがいができる。いい

加減に片付けない。

そして1番大切なのはコミュニケーションです。コミュニケーションの基本は何ですか？挨拶ですね。これが大事ですよ。挨拶はどちらかという目上の方からやる。最近若い奴は挨拶もろくにできないよなんてそんなこと言わないで、目上の人がやり始めると若い人も挨拶をする。挨拶の時に、一言付け加えてあげてください。寝不足そうな顔をしていても、「おはようございます、お元気そうですね」するとね、寝不足そうな顔がパツと明るくなりますよ。特に中高年のみなさんは、ちよつと若く年を言ってあげる。この人古稀かなと思っても「そろそろ還暦ですか」とかね。だいたい10歳くらいサバ読んで大丈夫。「若いね」って教えてあげる。挨拶にそういうのを必ず付け加えてください。褒められると人間勇気が出ますよ。皆さん、セカンドライフは笑いです。仕事ではふざけるなって言われるんだけど、セカンドライフのキーワードは笑い。笑いがあればみんな集まってくるんです。地域活動でもボランティア活動でもつまらないところには行かない。そこで皆さんが笑いの中心人物に、自分から笑いを作り出す、そういう人になっていただきたい。

笑いのネタは、どこにでも転がっています。例えば、電車に乗ろうと思っても、面白いネタがいっぱいありますよ。こないだ切符を買おうと券売機の前に行きまして、券売機の前でおばあさんが顔をマッサージしているんですよ。鏡でもあるのかと思って見てみたら、鏡じやなしに張り紙がしてありました。「お礼はしわを伸ばしてから入れてください」間違えて顔のしわを伸ばしていた。エスカレーターに乗っていましたら、後ろからぐつと掴まれたんです。放送が流れていました、「エスカレーターはベルトにおつかまりください」ズボンのベルトを掴んでいた。最近の駅員さんは親切ですよ。改札口で切符を入れて行こうとしたらガチャンと閉まっちゃったんですよ。慌てて駆けつけて調べてくれるんですね。ニコニコしながらVサインまでするんですよ。あ、Vサインだ、私もVサインで行こうと思ったら、「お客さん20円足りません」Vサインじゃなかった。今、駅での3つの面白いお話を立て続けにお話ししましたが、私の体験談は一つもないんです。3人の別々の人から聞いた話を繋げてここで披露している。これでいいんです。話し言葉には著作権というのはありませんから、借り物で十分なんです。周りが楽しくなればそれでいいんです。

ハイ、にっこり。みなさん、いい笑顔になりましたね。たった2時間弱でこんなに良い笑顔ですよ。定年後の人生はこの笑顔です。では、ご起立いただけますか。大笑い三笑というのをやりましょう。どのようにやるかといいますと両手でお腹を抱えてください。そして「ワッハッハッハ」これを3回繰り返します。3回目には手を挙げますね。はい、ワッハッハッハ！もっと大きな声でワッハッハッハ！ワッハッハッハッハ！ご清聴どうもありがとうございました。



# 図書室より おすすめの本

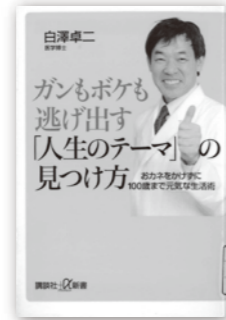
～男女共同参画基礎講座関連本～

センター図書室では、月ごとに特集コーナーを設け、テーマを決めて資料を展示、紹介しております。2013年12月の特集は『妻を「夫源病」にさせてはいけない!』をテーマに、夫婦のコミュニケーション能力を上げる方法や、男性が自分らしく輝く生きがいづくりの参考になる図書を紹介しました。今回はその特集コーナーなどから、おすすめの3冊をご紹介します。ご紹介した本は貸出できますので、ぜひご利用ください!【問合先】0243-23-8308(図書室直通)



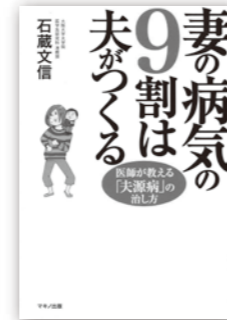
『女房に言いたい言葉  
いけない言葉』  
【分類 3202/1】

今井 登茂子 / 監修 (PHP文庫 2004年)  
「どうでもいいよ、そんなこと……」。何気なく妻に言ったひとことが原因で夫婦ゲンカに発展……などという経験はありませんか? まさにものは言いようで、同じ意味でも言い方ひとつで、相手の受け取り方は変わってきます。言いたい言葉・いけない言葉を少し頭の片隅に置いておくだけで、円満な夫婦生活が送れるはずですよ。



『ガンもボケも逃げ出す  
「人生のテーマ」の見つけ方』  
おカネをかせずに100歳まで元気な生活術!  
【分類 4101/7】

白澤 卓二 / 著 (講談社 2012年)  
医師である著者の「人生のテーマ」である「アンチエイジングの追求」に気づいたきっかけは、長寿のスキーヤー三浦敬三さんとの出会いでした。天候、気温、時刻などの条件次第で、決して同じではない雪へのチャレンジを、「人生のテーマ」としていただくことに感銘を受けたのです。定年後の健康長寿につながる充実生活のヒントのひとつは「人生のテーマ」を見つけることのようにです。



『妻の病気の9割は夫がつくる  
医師が教える「夫源病」の治し方』  
【分類 5104/1】

石蔵 文信 / 著 (マキノ出版 2012年)  
夫源病(ふげんびょう)とは、夫の言動や存在がストレスとなり、妻の心身に症状が現れる病気のこと。医学的な病名ではなく、医師である著者が命名したものだそうです。本書では、夫源病の引き金となるケースを紹介し、具体的な改善策を提案しています。改めて、夫婦のコミュニケーションに問題が無いのか、目を向けてみてはどうでしょうか。

## 事業レポートⅢ

# 未来館キッズクラブ in 安達東高校

未来を生きる子どもたちが、性別による役割分担意識をなくし、自分の個性を發揮して充実した生活を送ることができるようにするため、各学校と連携し、互いの性や人権を尊重する大切さや自分らしさを發揮するよさを学ぶ連携授業「未来館キッズクラブ」を開催しています。

福島県立安達東高校の1年生を対象に「未来館キッズクラブ」を実施しました。

- ◆期 日/平成25年12月12日(木)
- ◆内 容/『性別にとらわれない職業選択』

◆女性/男性の職場と思われがちな職業で活躍する男性/女性を知り、福島県の「職業別男女比」が1:1になったらいいと思う職業について話し合いました。男性・女性の固定観念にとらわれることなく職業選択の幅を広げ、自分のよさや個性が發揮できる職業に就くことの大切さを学びました。



### 《生徒の感想》

- ◎女性/男性の仕事だと思ったのに…と思う部分がありましたが、男女ともそれぞれの仕事で一生懸命やっているのだと思いました。
- ◎自分にあった職業を選びたいと改めて思いました。まだ高校生活は長いので、しっかりと将来の夢を決めていきたいと思いました。女性にも男性にも優しく明るく接するようになりたいです。
- ◎男だから女だからといった考え方をするのはではなく、もっと個人の意見を大事にするということを学びました。
- ◎今まで男性が社会で活躍することの多かった日本ですが、これからはより男女平等な日本、世界になると良いと思いました。

### 【女性が増えたらいいと思う職業】

- ◎『弁護士』……相談内容やその人の性格から、女性の方が相談しやすいこともあるから。
- ◎『医師』……病気によっては、女性に診てもらった方が安心感を持てることもあるから。
- ◎『市役所職員』……同性同士の方が話しやすいこともあるから。

### 【男性が増えたらいいと思う職業】

- ◎『看護師』……男性が女性看護師にやってもらうことで、恥ずかしいこともあるから。
- ◎『介護福祉士』……力仕事も多くあり、男性の体力を必要とするものが多いから。
- ◎『幼稚園教諭・保育士』……心と体の成長には、男性が関わることも必要だから。

## 活動団体紹介 ◆ YWCA活動スペース カーロふくしま

「YWCA活動スペースカーロふくしま(以下「カーロふくしま」)は、公益財団法人日本YWCA(Young Women's Christian Association of Japan)※1が運営しているcom7300委員会※2が、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故(以下「原発事故」)の被災者に20年寄り添って支援するための福島県における活動拠点です。今回は、当団体が実施している、新地町の仮設住宅に住む女性たちが布を裂いて織った「さきおりコースター」の販売支援、福島県で生活しているお母さんたちの交流の場として開いている様々な教室などについて、カーロふくしまの樫山(もみやま)さんにお話を伺いました。

(注1)キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を乗り越えて力を合わせ、女性の社会参加を進め、人権や健康や環境を守る平和な世界を実現する国際NGO  
(注2)comとはラテン語で「ともに」7300とは365日×20年=7300日のことである。東日本大震災の時に生まれた子供が20歳になるまで寄り添い支援し続けることを決意し、立ち上げた組織

### Q お母さんたちの交流の場として、どのような活動を行っていますか。

カーロふくしまは、福島駅近くの住宅街に事務所があり、20人くらいが机を囲めるほどの活動スペースで、カラーセラピー教室、メイクアップ教室や耳つぼ・ヘッドマッサージなど、日々、頑張っているお母さんたちが体をほぐしたり、リラックスできる、また、明日から頑張ろうと思ってもらえるような教室を開いています。その他に原発事故の損害賠償について学んだり、地元農家さんと話をする機会も持たれました。



福島県で生活しているお母さんの中には、子どもへの放射線による健康被害などに不安を抱えていても時間の経過とともに、こうした悩みを話す機会がなくなったという方もいます。こうした人達が教室やサロンへ参加したことをきっかけに、同じ悩みを共有し、じっくり思ったことを言い合える、そのような交流の場になっています。

また、参加者には教室に参加したことでより深く学び、積極的に自ら行動し自立するためのきっかけになってくれればと思っています。

### Q 新地町の仮設住宅の女性たちが作る「さきおりコースター」について、どのような支援を行っていますか。

震災後、日本YWCAが津波被害の大きかった新地町の災害ボランティアセンターの運営補助及び救援活動にスタッフを派遣したことがきっかけで、支援を続けています。その中で、仮設住宅に暮らす女性たちが被災後支援物資で余った衣服から「さきおりコースター」を作り販売していることを知りました。日本YWCAでは、日頃から環境を考えた商品やフェアトレード(公平貿易)商品の販売、リサイクル・リユースを主眼にしたバザー等を行っており、同様に新地町の女性たちが全国からの厚意を無駄にせず、新たなつながりとして生まれ変わらせていることに感銘を受



けました。こうした経緯もあり、地域YWCAや学校、関係団体等に「さきおりコースター」を紹介し、販売支援を行っており、カーロふくしまでも販売しています。

「さきおりコースター」は、支援物資で余った衣服から適当なものを選び、洗濯し、糸状に裂いて編むという手の込んだ作業で作られています。継続して販売するために品質を保持し、織り方やサイズをしっかりと検品しています。売り上げは、仮設住宅の集会所の運営費用に充てられており、新しいコミュニティーづくりや女性たちのやりがいにもつながっています。皆様にお買い上げ、お使いいただけたら嬉しいです。

### Q 今後の活動についてお聞かせください。

平成26年4月以降福島市内で活動している支援団体の中には、活動場所の確保が課題となっているところもあります。そこで、カーロふくしまでは平成26年4月から登録した団体にカーロふくしま事務所内の活動スペースの提供を予定しています。登録には審査を行います。活動場所を無料で提供し、団体が行う講演会や講座を実施し(「持ち寄りカフェ」)、多くの方が参加できるようにしたいと考えています。



その他の活動として、放射線による被曝量軽減を目的とした保養の受け入れ団体に、感謝の気持ちを届けたいと手作りのくみボタンなどを送る活動の準備をしています。初めは、カーロふくしまの教室に参加する方が個人的に保養先の団体の活動に役立てて欲しいと行っていたことがきっかけでした。同じように感謝の気持ちを届けたいと活動に加わる方が増え、今後はくみボタンの他、マスクや布ナプキンなどを作って支援して下さった方に送りたいと考えています。支援してもらえばかりではなく、何らかの形で感謝したいという想いが活動につながっています。

**YWCA活動スペース  
カーロふくしま**  
福島市矢剣町29-3  
**080-8905-4978**  
(火・木・金10時～16時まで)  
※H26年4月～月・水・金に変更予定  
ywacaro@iaa.itkeeper.ne.jp

# Thank you for 50th number of MIRAikan NEWS!

福島県男女共生センターでは、開館以来男女共同参画社会の理念の普及とセンター活動紹介のため、  
広報誌「未来館NEWS」を発行しております。

創刊から多くの方に支えられ、今回50号の節目を迎えることができました。

創刊当時、調査研究室長で「未来館NEWS」の編集を担当していた鈴木千賀子さんに創刊当時の思い出や目指したものなどについて、  
寄稿していただきました。また、当センター館長 千葉悦子より、感謝をこめたメッセージを申し上げます。

## 未来館NEWS50号に寄せて

福島県企画調整部文化スポーツ局 局長 鈴木 千賀子

未来館NEWSの創刊50号おめでとうございます。

未来館のオープンに合わせて発行された創刊号では、初代館長であられた下村満子さんのお計らいで、館長対談のお相手として筑紫哲也さんにご登場いただきました。対談を記事にするため伺ったテレビ局のレストランで筑紫さんはお一人で夕景を見ておられましたが、その存在感は圧倒的で、まるで映画の一シーンのように目に焼き付いています。

当時は、全国の他の施設の広報誌の内容は、イベント紹介といったものが多かったと思います。そうした中で私たちは、「男女共同参画について考えるための情報を提供すること」が「未来館NEWS」

の役割であると考えました。しかも、わかりやすいと同時に勉強会などのテキストとして使えるくらい水準の高いものにするというのが目標であり、著名な方々にご寄稿をお願いしたりしていました。

男女共同参画のような最先端の理念を扱うためには、編集担当としてはたいへんな勉強が必要でした。「未来館NEWS」は歴代の担当の方々の研さんの積み重ねがあつてこそ、おれることなく男女共同参画の理念の発信を続けてこられたものと思います。また、読書案内については別途ボランティアの皆様をお願いすることとしましたが、ボランティアの皆様の手による図書情報誌「ライブラリー散歩道」も一足先に50号を迎えられ、地道な活動が着実に引き継がれてきたことに感謝の気持ちで一杯です。

男女共同参画の理念は一朝一夕に浸透するものではないと思っています。震災と原発事故を経験した今、「未来館NEWS」に求められる役割も新たな段階に入っているようですが、これからもわかりやすく情報発信を続けていきたいと思っています。

## 未来館NEWS創刊50号を迎えて

福島県男女共生センター 館長 千葉 悦子

福島県男女共生センターでは、2001年1月より男女共同参画の理念の普及、センター主催事業の開催報告、あるいは県内の男女共同参画の実現に向けて実践している取組や団体を紹介するため、広報誌「未来館NEWS」を発行して参りました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災後により、臨時休館を余儀なくされ、また敷地内に緊急被ばくスクリーニング会場が設置されたり、浪江町役場を臨時的に設置するなど(2012年9月まで)、センター事業も大幅な見直しを迫られました。そうした中であっても「未来館NEWS」は休刊せず、センターの重要なツールとして、情報発信を行ってきました。その「未来館NEWS」が創刊から多くの方に支えられ、このたび50号を迎えられたことに、深く感謝申し上げます。

初代館長の下村満子さんのもとで、センターオープン時の創刊号から40号が発刊されております。創刊50号を迎えたということで、私は創刊号から改めて読み直してみました。著名人による講演、下村館長と各界の著名人との対談、国際シンポジウムなど他のセンターでは易々とはできないと思われる企画を次々と実施している様子が紙面から生き生きと伝わってきます。新世紀にふさわしく、男女共同参画社会の形成を目指した活動の拠点としてセンターを活

用してもらおう、そのためにグローバルな視野から学問的裏付けのある質の高い知識や情報を発信しよう、という強い意志を誌面から感じることができます。

私が館長に就任して以降は、男女共同参画の理念をさらに一層地域に根づかせたいと、未来館NEWSでは、地域の中で自ら考え自ら行動する頼もしい女性たちの活躍を「チャレンジする女性」として紹介したり、あるいは子育てやワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業を取材し、「地域に息づく実践モデル」として情報発信に心がけてきました。

東日本震災以降は、放射線に関する図書を紹介したり、被災女性による仕事おこしや生きがいづくりの取組や被災者のための支援活動を行っている市民団体の活動など、厳しい状況の中で前に向かっていこうとしている県民の方々、それを支援する団体や個人を紹介するよう努めてきました。また、福島県外に避難している県民への情報発信を充実させるため、県外の男女共同参画センター及び県外避難者支援団体等へ、御協力をいただきながら、未来館NEWSをお送りしています。

県民の方々が必要とする情報は何か、県民の方々の声に耳を傾け、求められている情報を誌面に具現化すること、初心に立ち返りつつ、このことにもっともっと心を砕かなければならないと思っています。

分かりやすく、面白く、読んでみたいと思う未来館NEWSを目指して、これからもさらにいっそう努めて参りたいと思います。皆様からもどしどしご意見・要望、情報をお寄せください。



未来館NEWS創刊号



未来館NEWS10号



未来館NEWS20号



未来館NEWS30号



未来館NEWS40号

mi      rai      kan  
未来館  
ニュース

福島県男女共生センター 広報誌

2014.3 vol.50

### ■編集・発行

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL(0243)23-8301(代) FAX(0243)23-8314

ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス [mirai@f-miraikan.or.jp](mailto:mirai@f-miraikan.or.jp)

女と男の未来館

検索